

—平成28年度—

事業報告書

平成29年6月

一般社団法人 日本私立歯科大学協会

平成28年度事業報告及び収支決算報告

目 次

I 事業報告

1. 個別事項

(1) 歯科医師需給問題について	3
(2) 歯科医師国家試験について	5
(3) 歯科医師臨床研修について	5
(4) 歯学教育の認証評価について	6
(5) モデル・コア・カリキュラムの改訂について	8
(6) 臨床実習終了時の評価について	9
(7) 高大接続システム改革について	11
(8) 附属病院の感染対策について	11
(9) 協会の「広報戦略」について	12
(10) 私立歯科大学(学部)の財政等の現状について(平成27年版)	16
(11) 広報の発行(第72号・第73号)について	16
(12) 受験生確保対策事業について	19
(13) 研修事業について	19
(14) 災害保険医療連絡協議会について	20
(15) 私学関係諸団体との提携・協力及び援助について	20

2. 会 議

(1) 総 会

・第82回定時総会(H28.6.29)	21
・第83回臨時総会(H29.3.29)	24

(2) 理事会

・第1回(H28.4.18)	28
・第2回(H28.5.27)	29
・第3回(H28.6.29)	31
・第4回(H28.7.31)	31
・第5回(H28.11.4)	31
・第6回(H29.1.10)	33
・第7回(H29.2.24)	34
・第8回(H29.3.29)	36

(3) 部会・委員会

①教育・研究部会

・第1回(H28.6.29)	38
・第2回(H28.11.4)	38
・第3回(H29.3.29)	38

②病院部会

・第1回(H28.6.29)	38
・第2回(H29.3.29)	39

③経営部会	
・第1回 (H28.6.29)	39
・第2回 (H29.3.29)	39
④広報委員会	
・第1回 (H28.10.13)	40
⑤受験生確保対策委員会	
・第1回 (H29.3.21)	40
⑥研修委員会	
・第1回 (H29.3.14)	40
⑦附属病院感染対策協議会	
・第10回 (H29.2.15)	40
⑧歯学教育認証評価に関する検討委員会	
・第1回 (H28.7.26)	41
(4) 事務局長会議	
・第1回 (H28.5.13)	41
・第2回 (H28.11.1)	41
・第3回 (H29.2.22)	42
3. 研修会	
(1) 第38回附属病院管理運営事務研修会 (H28.10.14)	43
(2) 第11回教務研修会 (H28.12.8~9)	45
II 収支決算—平成28年度日本私立歯科大学協会収支決算報告書.....	50
III 平成29年度日本私立歯科大学協会事業計画.....	61
IV 平成29年度日本私立歯科大学協会収支予算.....	64
V 日本私立歯科大学協会役員名簿.....	66
VI 正会員の入会・退会及び会員名簿.....	67
VII 資料	
1. 私立歯科大学・歯学部募集人員の推移.....	69
2. 平成28年度入試結果.....	70
3. 平成29年度私立歯科大学・歯学部入学者選抜実施計画表.....	71
4. 私立歯科大学・歯学部学費一覧.....	72
5. 平成29年度入学志願者・受験者状況(中間状況)	73

I 事業報告

1. 個別事項

(1) 歯科医師需給問題について

1. 文部科学省「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」

(1) 第2回理事会（H28.5.27）において、文部科学省の歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議の第3回フォローアップ調査まとめ（H28.3.31）への意見を文部科学省に出すことが承認された。

(2) 第3回理事会（H28.6.29）において、安井副会長・専務理事から、資料により、事前に各大学に意見書（案）について照会したところ、3大学から意見があり、可能な限り意見を盛り込んで修正したとの説明があった。

引き続き、井出会長から意見書については、本日の総会で講演をお願いしている文部科学省の寺門医学教育課長に、講演の前に読み上げる形で内容を伝えることとし、それらを踏まえた講演内容としていただくこととしたい旨の提案があり、これを承認した。

(3) 第82回定時総会（H28.6.29）において、井出会長から、総会に先立って開催した第3回理事会において、文部科学省「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」第1次報告を踏まえた第3回フォローアップ調査まとめへの協会としての意見をまとめ、確認されたこと。また、本日の寺門医学教育課長の講演の前に、意見書の内容を直接お伝えし、可能であれば、講演の中でも触れていただくようにしたいとの提案があり、了承された。

引き続き実施された、寺門医学教育課長の講演の前に、意見書を事務局が読み上げ、協会としての意見を文部科学省に伝えた。講演の中で、寺門医学教育課長から、定員等の問題については、協会及び各大学との話し合いを十分に行った上で、検討することとしたいとの発言があった。（別記1）

2. 厚生労働省「歯科医師の資質向上等に関する検討会」

(1) 第2回理事会（H28.5.27）において、川添理事から、資料に基づき、歯科医師の資質向上等に関する検討会、歯科医師の需給問題に関するワーキンググループ（第5回）での検討状況について、説明があった。

(2) 第6回理事会（H29.1.10）において、歯科医師の資質向上等に関する検討会（第3回）（H28.11.25）の検討状況としての、12月13日付け読売新聞夕刊の報道について、情報交換及び議論するとともに、検討会を傍聴した白石事務局長から「具体的に歯学部定員の削減や国家試験の合格基準の引き上げについての議論はなされていない。」との報告があった。（別記2）

(3) 第83回臨時総会（H29.3.29）において、国立保健医療科学院、安藤雄一統括研究員から「歯科医師数の需要推計結果と今後の見通し」について講演があり、講演の中で、推計値はその前提条件をどうするかによって結果は大きく異なり、現段階でどの数値が正しいとは言えないなどの説明があった。

**「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告
(平成21年1月)を踏まえた第3回フォローアップ調査まとめ
(平成28年3月31日)」への意見**

一般社団法人日本私立歯科大学協会は標記「調査まとめ」に対して以下の意見を述べる。

4-(2)-② 「入学定員(募集人員)の削減」について

我が国の国民に対する適切な歯科医療を供給することは歯科大学・歯学部の一責務であり、地域包括ケアシステムのなかで在宅歯科医療を遂行するためには、一診療所あたりの歯科医師数を勘案しても、新規の歯科医師の参入が必要であることは論を待たない。

政府が新規参入歯科医師数の抑制を言うのであれば、政府の方針を具現化する教育機関での調整を図る必要がある。

4-(2)-③ 「編入学生の受入れ」について

大学における編入学は国民に対して学修機会の多様化を支援するものである。また、私立大学における編入学は欠員補充に因るものであって、入学定員とはまったく異なる。私立学校法に基づく健全な発達を図るための措置であるので、募集人員の内数に設定する必要はない。

4-(2)-④ 「留年率と退学率」について

4-(2)-⑤ 「最低修業年限での歯科医師国家試験の歯科医師国家試験合格率の向上」について

留年率、退学率、あるいは最低修業年限での歯科医師国家試験合格率の向上については、教育を預かる学校の自主的判断に因るものであり、教育の質保証の観点から言及する必要はない。

4-(2)-⑥ 「診療参加型実習の充実のための改善方策」について

4-(2)-⑦ 「自験の定義の共有」について

診療参加型臨床実習の在り方については、歯科医師臨床研修制度との係りの中で、既に本協会の考え方を提示している。(別添参考 平成25年4月1日、平成25年5月20日全国歯科大学学長・歯学部会長会議提出)

- 1) 診療参加型臨床実習には、「見学」、「介助」、「自験」が含まれる。
- 2) 方略を選択する際の各大学病院の実情として、病院環境の違い、来院患者数の違いが大きく影響しており、29歯科大学・歯学部を一律の方略で規制することは適当ではない。歯学教育モデル・コア・カリキュラムに示された水準と方略との関係はあくまでも原則であり、学生、患者の状況に

1

別添 平成25年4月1日

一般社団法人 日本私立歯科大学協会

歯科診療参加型臨床実習についての意見(骨子)

1. はじめに 一 診療参加型臨床実習の目的と教育環境について

診療参加型臨床実習は、学生が附属病院等において診療チームに参加し、その一員として指導医の下で患者中心の診療業務を分担しながら、歯科医師としての職業的な知識・思考法(臨床推論を含む)・態度・技能・倫理観(医道)の基本的な内容を学ぶことを目的としている。

したがって、歯科大学・歯学部においては、学生が診療チームの一員として診療業務を分担しながら段階的・体系的・実践的に学ぶ機会を充実し、その成果を蓄積できるような診療参加型臨床実習のカリキュラムの工夫・改善や教育体制の整備・充実、さらには評価方法の改善に努めることが必要である。言うまでもなく、技能のみの評価ではなく、プロセスを重視し診察・検査から診断そして包括的な治療計画の立案を前提に評価を行うべきである。

元来、学生個々の技能や知識等の習熟・習得状況には相違があるため、思考・判断、スキルなどについて、個別の学生が明確に到達目標を理解したうえでポートフォリオ等の評価を行う必要がある。指導医と学生が評価される内容の共有化を図りつつ、学生の「振り返り」学修による学修効果の推進を図るべきである。

また、今後の連携医療体制の重要性に鑑み、コデンタル・コメディカルをはじめとした医療チームの構成員との円滑なコミュニケーションや協調等に関する能力や態度を習得させるための機会を充実させる等、実習内容の検討を十分に行うことが求められる。

2. 歯科診療参加型臨床実習について

- 1) 診療参加型臨床実習には、「見学」、「介助」、「自験」が含まれる。
- 2) 方略を選択する際の各大学病院の実情として、病院環境の違い、来院患者数の違いが大きく影響しており、29歯科大学・歯学部を一律の方略で規制することは適当ではない。歯学教育モデル・コア・カリキュラムに示された水準と方略との関係はあくまでも原則であり、学生、患者の状況により大きく左右されるため、患者中心の医療を

3

より大きく左右されるため、患者中心の医療を展開する上で大学及び指導医の判断に委ねられる。

4-(3)-② 「臨床実習終了時の態度・技能評価の導入」について

臨床実習終了評価としてOSCEが推奨されているが、診療参加型臨床実習後の終了試験としてシミュレーション試験を実施することは違和感がある。

4-(3)-③ 「第三者評価の導入」について

分野別認証評価については、文部科学大臣が認可した評価機関との連携を図り、機関別認証評価と連携した評価を検討するべきであり、安易に第三者評価機関の設立を検討すべきではない。

平成28年6月29日

一般社団法人 日本私立歯科大学協会

2

展開する上で大学及び指導医の判断に委ねられる。

- 3) 臨床実習終了評価としてOSCEが推奨されているが、診療参加型臨床実習後の終了試験としてシミュレーション試験を実施することは違和感がある。

3. 歯学教育モデル・コア・カリキュラムのGIOへの提言

歯学教育モデル・コア・カリキュラム 一教育ガイドラインー 平成22年度改訂版準拠
診療参加型臨床実習コア・カリキュラム事例集(案) 2011年11月09日版
に記載されている一般目標(GIO)の問題点について

カリキュラムプランニングの原則として、一般目標には「期待される成果が明確に記載されていること」とされている。つまり、学修者はすべての行動目標を達成できれば、一般目標に示されている成果を得られると理解するわけである。当然、このことは各大学において教員も学生も理解していることである。

しかし今回、上記(案)に示されている多くの一般目標は、このカリキュラムプランニングの原則に反し、「期待される成果」が一般目標にかかれていない項目が多数存在する。これらの不完全な一般目標が独り歩きすると、各大学の教員は独自のカリキュラムを組むことができず、学生は何をどのように学修してよいのかという個別の学修行動を取ることが不可能となってしまう、臨床教育の現場では大混乱を発生しかねない。つまり、各大学が、各学修者がゴールの見えない長距離走をバラバラな方向に向かって走り始めてしまう可能性を懸念しているわけである。

「期待される成果」は通常「へのために」という表現が使われ、一般目標の文章の前半部分を占めることになる。そこで、不完全な一般目標を掲げている項目に対して、文章から読み取れる範囲だけで「期待される成果」をカリキュラムプランニングの原則に則り、形だけではあるが変更してみたので早急なる改善の参考としていただきたい。

F-1: 期待される成果が記載されていない

良好な患者-歯科医師関係のもと適切な治療計画を立案するために、医療面接や治療計画に関する知識、技能および態度を習得する。

F-2: 期待される成果が記載されていない

患者の全身的、局所的な病態を把握するために、口唇・口腔・顎顔面領域の基本的な診療技能についての知識、技能および態度を習得する。

F-3: 期待される成果が記載されておらず、SBOsに回った方がよい語句が多い

画像検査を安全、確実に実施するために、放射線検査の基本的な知識、技能および態度を習得する。

※ 人への影響、放射線防護の言葉はSBOsへ

4

F-4: 期待される成果が具体的でない(現実的でない)、どのような歯科診療かが不明
安全に配慮した歯科診療を実践するために、医療安全・感染防止の知識、技能および態度を習得する。

F-5: 期待される成果が具体的でない(現実的でない)、どのような歯科診療かが不明
地域において全人的医療をチームで実践するために、地域医療、病診連携についての知識、技能および態度を習得する。

F-6: 期待される成果が記載されていない
適切な口腔外科小手術を実践するために、基本的口腔外科手技についての知識、技能および態度を習得する。

F-7: F-7-1)、-2)、-3)は関連するユニットであるためコースとしての GIO を必要とする。
 F-7 全体のコース GIO は、
歯とその機能を良好な状態に保存するために、保存修復治療、歯内療法治療、歯周治療に関する知識、技能および態度を習得する。

F-8: F-8-1)と 2)は関連するユニットであるためコースの GIO を必要とする。
 F-8 全体のコース GIO は、
適切な咬合状態による顎口腔機能の回復と審美性を維持・回復するために、補綴歯科治療についての知識、技術および態度を習得する。

F-8-1): 期待される成果が記載されていない
適切な補綴歯科治療を実践するために、クラウンブリッジに関する基本的な知識、技能および態度を習得する。

F-8-2): 期待される成果が記載されていない
適切な補綴歯科治療を実践するために、可撤性義歯に関する基本的な知識、技能および態度を習得する。



(2) 歯科医師国家試験について

第8回理事会(H29.3.29)において、平成29年2月4日及び5日に実施され、3月17日に合格発表された「第110回歯科医師国家試験」の結果について、資料により事務局から説明があった。

【第110回】

	(出願者数)	(受験者数)	(合格者数)	(合格率)
新卒者	2,462人	1,855人	1,426人	76.9%
全体	3,691人	3,049人	1,983人	65.0%

(昨年の状況)

【第109回】

	(出願者数)	(受験者数)	(合格者数)	(合格率)
新卒者	2,536人	1,969人	1,436人	72.9%
全体	3,706人	3,103人	1,973人	63.6%

(3) 歯科医師臨床研修について

1. 第3回理事会(H28.6.29)において、平成28年度歯科医師臨床研修収支等の実態調査結果について、資料により事務局から報告があり、年々、収支のマイナスが増大してきていることが確認された。

2. 第6回理事会（H29.1.10）において、平成29年度概算要求において、増額要求されていた歯科医師臨床研修費補助金が、平成29年度政府予算案において、対前年度△5%（△7,000万円）になったとの報告が事務局からあった。

（4）歯学教育の認証評価について

1. 第1回理事会（H28.4.18）において、文科省の補助事業の中で「歯学教育認証評価事業評価機構の設置に係る委員会」が発足し、先月28日に第1回目の会合が開催されたとのことで、このことに関し理事会としてきちんと現状を把握し、今後、適切に対応を図っていくため、歯学教育認証評価検討WGの幹事会委員であり、また、この評価機構の設置に係る委員会委員である東京歯科大学の一戸達也先生に出席頂き、現状及び今後の動向見込み等の説明をしていただいた。

次に、安井副会長・専務理事から、資料により、宮崎理事（当日、欠席）より日本医学教育評価機構（JACME）から昭和大学医学部に対して、本年1月に入会の案内が届いており、それによれば、入会金、年会費、受審料を合わせると相当な高額になっているとの情報提供と、これと同じようなことを規模の小さい歯学部単独でやるというのは極めて困難ではないかとの意見があったことの説明があった。

以上の説明を基に、協議が行われ、出席者全員から意見あるいは要望が述べられた後、最後に、議長及び安井副会長から次のようなまとめがあった。

- 検討を進めていくに当たっては、評価基準及び評価項目に関して機関別認証評価との重複の排除を含めた適切な仕分け、また、国立大学歯学部と私立歯科大学・歯学部との学生規模の違いや附属病院の立地の状況等を十分に考慮すべきである。
- 歯学部の評価機構の設置ありきの議論ではなく、医学部や薬学部に比べて極めて小規模の歯学部の実態に鑑みて、大学基準協会などの文科大臣の認証評価機関等への評価業務の委託、あるいは機関別評価の中の一環として歯学部の分野別評価を盛り込むことの可能性等、既存の評価機関を有効に活用させて頂くこと等を検討すべきである。

本日の意見あるいは要望を踏まえつつ、今後、早急に理事会において協議を継続し、方向性や意見を取りまとめ、文科省、関係のWG及び委員会へ提出することを確認した。

2. 第2回理事会（H28.5.27）において、井出会長から資料により、歯学教育認証評価についての検討状況について説明があり、認証評価への対応のための業務負担が増加すること及び費用負担の観点から、新しく評価組織を立ち上げるのではなく、既存の機関別認証評価の際に追加して実施することも視野に入れて、既存の認証評価組織に委託する方向で、検討を進めることが承認された。

これを受けて、井出会長から、協会の中に評価基準を検討するための委員会を設置する必要があるのではないかとの提案があり、議論の結果、委員会を設置することが承認された。

次に、委員会の委員長は関本理事とし、各大学から委員の推薦を受け、委員会を構成することを確認した。

3. 第 82 回定時総会（H28. 6. 29）において、安井副会長・専務理事から、資料により、歯学教育の認証評価に協会として意見を述べるため、「歯学教育認証評価に関する検討委員会（仮称）」を設置することとし、各大学から委員を推薦いただき、委員長を関本理事にお願いしたこと。この委員会を通じて、私立大学としての評価項目等について議論を深め、別途、国から補助を受けて実施されている、「歯学教育認証評価の設置に係る委員会」との調整をしていきたいとの説明があり、了承された。

4. 歯学教育認証評価に関する検討委員会（第 1 回）（H28. 7. 26）を開催し、下記のことを確認した。

- ・歯科教育について、分野別認証評価が必要であることは認めるが、費用負担のこともあり、新たな評価機構を設置することを前提とした議論には、原則として反対する。
- ・「歯学教育認証評価機構設立準備委員会」については、「歯学教育認証評価準備委員会」と名称を変更して、新しい機構設置に限らず、既存の認証評価機関との連携も視野に入れ、実施に関する様々な方法とその際の費用について試算して、具体的に提示してほしい。
- ・また、各大学は委員会での決定に拘束されるものではないことの事前確認も必要である。

5. 第 5 回理事会（H28. 11. 4）において、井出会長から 7 月 29 日に開催された、「平成 28 年度歯科大学学長・歯学部長会議及び全国歯科大学・歯学部附属病院長会議合同会議」で歯学教育認証評価の在り方について議論され、私立大学側からは、評価機構設置ありきの議論ではなく、既存の認証評価機関の活用も含め、幅広い見地からの検討が必要との意見を述べたこと、また、文部科学省医学教育課課長補佐からも、新たな評価機構の設置には拘っていないとの発言があったことなどの説明があった。なお、合同会議では、今後の検討を同会議常置委員会に委ねることとなったとの説明が併せてあった。

次に、同会議常置委員会委員長の三浦副会長から資料により、9 月 5 日に開催された、常置委員会において、認証評価制度とスチューデント・デンティスト（仮称）制度については、それぞれ専門委員会を設置することとし、国公立及び私立から各 3 名の専門委員の推薦を受け、計 6 名により、専門委員会を構成することが決定されたとの説明があった。

さらに、歯学教育認証評価検討WG 荒木孝二座長からの「歯学教育認証評価基準 2016 年度」に対する意見の提出依頼については、各大学から意見を提出することとし、その意見を以って、協会としての意見とすることが確認された。

6. 第 6 回理事会（H29. 1. 10）において、井出会長から歯学教育認証評価の実施に反対するものではないが、実施方法等については、私立大学としての意見を述べる必要があるとの発言があった。

引き続き、関本理事から、「①認証評価に際して新たな機構の設立はせず、既存の認証評価機関に委託する。②評価者については、国公立 29 大学で養成を考える。③費用については、既存のトライアルの状況を基礎にして考える。という、三点を当協会の基本的方針として確認してもらいたい。」との提案があった。

このことに関して、平田常務理事から、「新たな機構を設立しないということ

については、経費的なことに加えて、既に認証評価機関として国の指定を受けている機関で実施した方が、評価結果についての信頼性がより高いものとなるとの観点も加えた説明が効果的である。」との提案があった。

その結果、関本理事及び平田常務理事の提案を併せて承認し、歯科大学学長・学部長会議常置委員会歯学教育認証評価専門委員会において、関本理事が当協会の意向を伝えることとなった。

7. 第7回理事会（H29.2.24）において、三浦副会長（歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会委員長）から1月25日に歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会第1回専門委員会を開催したとの報告があった。

引き続き、関本理事から専門委員会委員長に関本理事が、九州歯科大学西原学長が副委員長になり検討をし、①評価のための新しい機構は立ち上げず、既存の認証評価機関で行う②例えば運営は大学基準協会に依頼して、その結果を各大学が機関別認証評価を受審している機関で認証してもらう③ソフト面としては、文部科学省大学改革推進事業の補助を受けて、歯学教育認証評価検討ワーキングが実施している「歯学教育認証評価制度等の実施に関する調査研究」で作成された歯学教育認証評価基準（案）をたたき台とする④評価者の養成については、日本歯科医学教育学会に担ってもらう⑤了解が得られれば、今後、金銭面も含めて既存の認証評価機関と話し合いを始めるなどについて確認したとの説明があった。

さらに、2月17日に「歯学教育認証評価制度等の実施に関する調査研究」事業成果報告会が開催され、実施の経緯やトライアルに関しての報告があった後、西原専門委員会副委員長から第1回専門委員会で確認された方向性について述べ、出席者に意見を伺ったが、特段の意見はなかったとの説明があった。

8. 第83回臨時総会（H29.3.29）において、関本理事から、1月25日に歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会第1回専門委員会が開催されたことに関し、第7回理事会と同様の説明があった。

次に、歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会委員長の三浦副会長から、今後、専門委員会で検討をして、本年度の歯科大学学長・歯学部長会議で決定したいと考えているとの発言があり、これらのことについて、承認された。

（5）モデル・コア・カリキュラムの改訂について

1. 平成27年度採択 大学における医療人養成のあり方に関する調査研究委託事業第4回歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改定に向けた歯学調査研究チーム会議（H28.7.11）に、安井副会長・専務理事、三浦副会長、宮崎理事が出席して、意見を述べた。
2. 文部科学省 モデル・コア・カリキュラム改訂に関する「連絡調整委員会」（第3回）及び「専門研究委員会」（第4回）合同会議（H28.11.16）に井出会長等が出席して、意見を述べた。
3. 第7回理事会（H29.2.24）において、関本理事からモデル・コア・カリキュラム改訂について、2月20日に文科省の専門研究委員会が開催され、パブリックコメントを反映した案が審議されたこと、また、近日中に連絡調整委員会が開催され、最終案が決定、公表される予定であることの説明があった。

4. 文部科学省 モデル・コア・カリキュラム改訂に関する「連絡調整委員会」（第4回）（H29.3.17）に井出会長が出席して、意見を述べた。

（6）臨床実習終了時の評価について

1. 第6回理事会（H29.1.10）において、平成28年12月23、24日に医療系大学間共用試験実施評価機構が開催した、『「臨床参加型臨床実習後の態度・技能評価」プレトリアルに向けての実施可能性に関するワークショップ』について、当日出席した、関本理事、長谷川松本歯科大学歯学部長、大友常務理事から、それぞれ情報提供があった。

出席者から実施内容及び方法、進め方等について種々質問や意見が出され、私立大学側として、どこで意見を述べていくかについて協議が行われた。

このことについて、関本理事から2月中旬に学長・学部長への説明会が開催される予定であるので、その場で意見を述べることにしたらどうかとの提案があり、これを了承した。

2. 第7回理事会（H29.2.24）において、2月14日に医療系大学間共用試験実施評価機構が開催した説明会の状況について、宮崎理事、長谷川松本歯科大学歯学部長、羽村日本歯科大学生命歯学部長から、それぞれ説明があった。このことについて、種々意見交換が行われ、協会として機構に対して意見書を出す必要があるとの意見が多数出された。

これを受け、意見書に書くポイントとして①評価を実施することについての機構設立目的との齟齬②既に各大学で、歯科診療参加型臨床実習後の評価については適正に実施していること③ディプロマ・ポリシーに応じた各大学の教育評価が必要であることの三点を確認するとともに、文案については、追って協会から各大学に提示することとなった。

3. 3月8日に、臨床実習終了時の評価に関する意見書を医療系大学間共用試験実施評価機構に提出した。（別記3）

4. 第8回理事会（H29.3.29）において、安井副会長・専務理事から、資料のとおり医療系大学間共用試験実施評価機構に意見書を提出したことの説明があった。

引き続き、3月16日に開催された、機構臨時総会における状況について、臨時総会出席者から下記のとおり情報提供があった。

長谷川松本歯科大学歯学部長から、①医科と歯科は違いがあるのに同一の審議案として審議するのはいかなるものか、②高価な模型代金を学生に負担させるのはいかなるものか、③法律に書いてあるから実施するというのであれば、実技試験は本来、厚生労働省がやるべきものではないかなどの意見・質問をしたが、明確な回答はなかったとの説明があった。また、清野晃孝奥羽大学歯学部准教授からの、医科と歯科について内容が異なるのだから、別名称にすべきとの意見に対して、機構側から名称を別にすると、新たな事業として捉えられ、再認証が必要になる可能性があるとの説明があったことが紹介された。なお、最終的には、歯科については2020年を目途に、トライアル等を通じて、検討を深めるとのこととなったとの説明があった。

続いて、関本理事から、臨床実習終了後に模型を使った評価を実施することについては、ナンセンスであるとの意見に対して、実施時期については各大学に任

せるとの機構側の発言もあり、私的意見ではあるが、見学介護実習が終わった後に実施するなど、柔軟性を持たせた方がよいのではないかと考えている。また、今後、三校のトライアルに1,000万円の費用がかかると聞いており、会費の値上げがあるのかと質問したところ、機構側からは会費の値上げはなく、受験料として15,000円の学生負担を考えているとの回答があった。さらに、歯科はまだ課題が多いので、開始時期は医科と同じでなくてもよいとの発言が、機構側からなされた旨の説明があった。

5. 第83回臨時総会（H29.3.29）において、安井副会長専務理事から、資料のとおり、医療系大学間共用試験実施評価機構に意見書を提出したこと、併せて、提出に至った経緯、考え方及び意見書の内容について説明があった。

引き続き、長谷川松本歯科大学歯学部長及び関本理事から、第8回理事会と同様の情報提供があった。

長谷川松本歯科大学歯学部長から、説明会等に出席した感想として、各大学からの出席者が決定事項として捉えるのではなく、これから議論していい方向に進めていくというスタンスで望むように伝えてほしいとの意見があった。

関連して、井出会長から、先日開催されたモデル・コア・カリキュラムの改訂に関する連絡調整委員会において、機構関係者から臨床実習終了後の評価をOSCEと称し、国家試験の代替えとして扱ってもよいのではないかと発言もあり、今後の動向に注意する必要があるとの発言があった。

臨床実習終了後の評価については、今後、理事会で審議を進めるということで、共通認識を得た。

別記3

歯大協発第66号
平成29年3月8日

公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構
理事長 高久史 様

〔別紙〕

公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構
理事長 高久史 様

歯科臨床実習終了時の評価について（意見）

一般社団法人 日本私立歯科大学協会
会長 井出吉 様

歯科臨床実習終了時の評価について（意見）

貴職におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、本日、歯科臨床実習終了時の評価につきまして要求書を別添のとおり、貴職宛に提出いたしますので、よろしくお取り計らいくださいますようお願い申し上げます。

貴機構が実施を計画しておられます歯科臨床実習終了時の評価につきまして、私ども協合理事会において協議しましたが、貴機構の設立目的との齟齬について、歯科診療参加型臨床実習における自験実習を強く推奨されて来られた経緯、大学教育に対する学位授与責任の所在の明確化等について疑義と意見を申し述べますので、早急に是正措置をお取りくださるようお願いいたします。

なお、昨年度の全国歯科大学学長・歯学部長会議と付属病院長会議の合同会議にて当該関連議案に関しては慎重審議となったにも関わらず、昨年末に説明会、ワークショップと進められ、現場の大学は大変混乱しております。また、2月14日の説明会で本協会会員大学が賛同したごとくに進められておられることに対して違和感を覚えておりますことを申し上げます。

記

1. 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構設立の目的との齟齬について

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構の設立の目的としては「(前略)医療系大学教育におけるコア・カリキュラムの策定と共用試験の導入は、我が国の高等教育改善方策における新たな展開としても位置づけられており、その充実が求められている。共用試験による優れた医療人育成を目指す、公益性のある組織を早急に設立すべきとの要請に応えて、平成17年3月14日、社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が設立された」とあります。さらに、公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構定款第4条では、「臨床実習において患者の診療に参加する学生の知識、態度及び技能が標準的な水準に到達していることを評価する共通の評価試験（以下「共用試験」という。）の実施に関する事業を行う（後略）」として、あくまでも「臨床実習に参加する前の共用試験の実施」がその役割と認識されます。歯科臨床実習終了時の評価については、そもそも目的とされておりません。

2. 歯科大学歯学部が歯科診療参加型臨床実習終了後の適正な評価について
平成28年3月31日に出された文部科学省「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議第1次報告（平成21年1月）を踏まえた第3回フォローアップ調査

まためにおいて「(前略)全ての項目で学生が自験を行うことを卒業要件とするよう強く求める」と述べ、診療参加型臨床実習を強く推進された結果として、直接、臨床において患者を対象とした実習を通じて教育が実施されてきています。この評価は、各大学が大学の教育責任として学位授与の方針を踏まえて決定し実施しているものであり、一律の方法論、特に技術評価では本来の目標評価に該当しません。海外においても、模範あるいはシミュレーション評価を推進すると、反対に診療参加型実習が軽視されるとの指摘もあります。歯科と医科では臨床実習の在り方に相違があることは当然です。このことについては、「日本私立歯科大学協会診療参加型臨床実習の在り方検討委員会」が「診療参加型臨床実習についての意見」として取り纏め、理事会の議決を経て、平成26年度全国歯科大学学長・歯学部長会議に提出したしており、提言として「臨床実習終了評価としてOSCEが推奨されているが、診療参加型臨床実習後の終了試験としてシミュレーション試験を実施することに違和感もある。診療参加型臨床実習終了評価にはポートフォリオの活用に加えて、患者からの評価などについても検討し、包括的に実施する必要がある」と指摘しております。

3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に応じた各大学の教育評価の必要性について

文部科学省は「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」（平成28年文部科学省令第18号）を平成28年3月31日に公布し、平成29年4月1日から施行することとしております。本改正は、「大学等が自らの教育理念に基づき、育成すべき人材像を明確化した上で、それを実現するための適切な教育課程を編成し、体系的・組織的な教育活動を行うとともに、当該大学等の教育を受けるにふさわしい学生を受け入れるための入学者選抜を実施することにより、その使命をよりよく果たすことができるよう、全ての大学等において、その教育上の目的を踏まえて、「卒業の認定に関する方針」、「教育課程の編成及び実施に関する方針」及び「入学者の受入れに関する方針」を策定し、公表すること」を求めるものです。また、平成24年8月28日の中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」では「成熟社会において学生に求められる能力をどのようなプログラムで育成するか『学位授与の方針』を明示し、その方針に従ったプログラム全体の中で個々の授業科目は能力育成のどの部分を担うかを担当教員が認識し、他の授業科目と連携し関連し合いながら組織的に教育を展開すること、その成果をプログラム共通の考え方や尺度（「アセスメント・ポリシー」）に則って評価し、その結果をプログラムの改善・進化につなげるという改革サイクルが回る構造を定着させることが必要である」と述べられています。すなわち、大学教育でもっとも重要であると指摘されている「内部質保証」の観点から、臨床実習を含む教育プログラムと学位授与の方針は一体性をもって各大学において実施する

ことこそが大学教育の本質であると考えております。

本協会は次のことを要望します。

1. 歯科における診療参加型臨床実習終了後の評価を公祉社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が実施することは設立趣旨並びに定款上ありえない。
2. 自験を強かに推進してきた文部科学省「歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」の方向性からも終了時の評価をシミュレーションで行うことは教育評価として適切ではなく、ポートフォリオ等適切な評価方法を用いるべきである。
3. 参加型臨床実習の評価は、各大学のディプロマ・ポリシーに基づき、教育プログラム（カリキュラム・ポリシー）評価にあり、「内部質保証」の観点から全国一律の方法論で拘束するべきではない。

ご多用の折から恐縮に存じますが、以上の3点につき、可及的速やかに是正措置をとられるようお願い申し上げます。

平成29年3月8日

一般社団法人 日本私立歯科大学協会

会長	井出吉信	東京歯科大学学長
	安井利一	明治大学学長
	三浦康行	岩手医科大学副学長・歯学部長
	前野正夫	日本大学歯学部長
	大野敬	奥羽大学歯学部長
	大友克之	朝日大学学長
	平出幸夫	神奈川歯科大学学長
	小出孝	愛知学院大学学部長
	中原泉	日本歯科大学理事長・学長
	岡崎隆	昭和大学副学長・歯学部長
	岡本恒夫	日本歯科大学新潟生命歯学部長
	矢ヶ嶋雅	故本歯科大学理事長
	川良英佐雄	日本大学松戸歯学部長
	里村一人	鶴見大学歯学部長

（7）高大接続システム改革について

第11回教務研修会（H28.12.8～9）のテーマを「高大接続改革をめぐって」とし、文科省 高大接続システム改革会議委員の佐藤東洋士氏（桜美林学園理事長・学園長）及び長塚篤夫氏（順天中学・高等学校長）並びに文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室長 橋田 裕氏の講演を実施した。

（8）附属病院の感染対策について

1. 第8回私立医科大学病院感染対策協議会総会（H28.8.6）が、愛知医科大学で開催され、本協会から朝日大学歯学部の安田順一先生、愛知学院大学歯学部の宮地 斉先生が代表として出席した。
2. 第18回国公立大学附属病院感染対策協議会総会（H28.10.13～14）が、弘前大学で開催され、本協会から北海道医療大学歯学部の永易裕樹先生、岩手医科大学歯学部の八重柏 隆先生が代表として出席した。
3. 附属病院感染対策協議会（第10回）（H29.2.15）を開催し、第8回私立医科大学病院感染対策協議会総会及び第18回国公立大学附属病院感染対策協議会総会への参加報告とともに、院内感染対策の教育等に関するアンケート調査のフィードバック状況について報告があり、各大学の状況等について情報交換を行った。

(9) 協会の「広報戦略」について

1. 第 82 回定時総会において、安井副会長・専務理事から、資料により、メディア対応として、本年度は歯科プレスセミナー、ファクトブックの全面改訂及び調査リリースの 3 事業を実施する予定であることが提案され、承認された。なお、歯科プレスセミナーについては、あと 4 回開催し、これまでに講演をしていただいている 8 大学に、お願いすることとしたいとの説明があった。
2. 第 2 回理事会 (H28. 5. 27) において、安井副会長・専務理事から資料により平成 28 年度広報戦略事業について、歯科プレスセミナー、ファクトブックの全面改訂、一般国民意識調査の実施スケジュールと、その費用について説明があり、承認された。
3. 第 6 回歯科プレスセミナー (H28. 11. 1) を開催し、岩手医科大学歯学部の佐藤和朗先生が「医歯連携で行う睡眠時無呼吸症候群の治療」、朝日大学歯学部の碓 哲崇先生が「何を食べたいか脳はどう決めるかー好き嫌いをさせない摂食の脳科学」と題して、講演を実施した。また、当日の出席者に第 4 回一般生活者意識調査結果を配布するとともに、後日、報道関係者 732 人に FAX 及びメールで配布した。(別記 4) (別記 5)
4. 第 5 回理事会 (H28. 11. 4) において、安井副会長・専務理事から、第 6 回歯科プレスセミナー (H28. 11. 1) の開催及び第 4 回一般生活者意識調査結果について報告があった。
5. 第 7 回理事会 (H29. 2. 24) において、安井副会長・専務理事から、本年度実施済みの「第 6 回歯科プレスセミナー」及び「第 4 回一般生活者意識調査」について、実施概要と費用対効果等について説明があった。また、本年度末の予算残額では、来年度以降は歯科プレスセミナーを二回開催することしかできないこととなり、これまで広報戦略事業を実施してきた効果を維持向上するためには、新しい企画による事業の実施が必要であり、当面各大学から 100 万円を拠出願えないかとの提案があり、これを承認した。
6. 第 7 回歯科プレスセミナー (H29. 3. 9) を開催し、松本歯科大学歯学部の長谷川博雅先生が「お口の中のある病気、こんな病気ー虫歯と歯周病以外にも驚くほどたくさんのがんが！ー」、愛知学院大学歯学部の前田初彦先生が「口腔病理学から見た ASEAN 経済共同体後のアジアにおける歯科医療への日本の戦略的役割」と題して、講演を実施した。(別記 6)
7. 第 83 回臨時総会 (H29. 3. 29) において、安井副会長・専務理事から、これまで広報戦略事業は、報道関係者の歯科に対する正しい認識に資するため、会員大学から拠出いただいた特別予算で、歯科プレスセミナーの開催、ファクトブックの作成・配布、一般生活者意識調査を実施してきたが、広報戦略事業の予

算残額は今年度末で、約1,370万円となっており、今後、歯科プレスセミナーを二回実施する程度の金額となっている。これらの事業により、ネガティブな報道も減り、国民の歯科に対する意識も改善されてきた。については、今後も広報戦略事業を継続するという事を、事務局長会議及び理事会で審議していただいて、来年度以降の新規事業実施のための経費として、各会員校から100万円ずつ拠出いただくこととなったとの説明があり、承認された。

8. 3月下旬、ファクトブック全面改訂版「報道用基礎資料 歯科医学教育に見る歯科医師の未来像」を刊行した。協会版及び希望する大学のPR入り版を合計4,000部印刷し、報道関係者約400人及び関係機関に郵送するとともに、文部科学記者会及び厚生労働記者会に配布した。(別記7)

別記4

開催概要

- 名称 ~歯科医学・歯科医療から国民生活を考える～
第6回歯科プレスセミナー
- ・【講演①】医歯連携で行う睡眠時無呼吸症候群の治療
- ・【講演②】何を食べたいかを脳はどう決めるか
一好き嫌いをさせない摂食の脳科学
- 主催 一般社団法人 日本私立歯科大学協会
- 開催日 2016年11月1日(火)
- 開催時間 受付:13:30～ セミナー:14:00～15:35
- 会場 コンファレンススクエア エムプラス 1階「サクセス」



- 来場メディア 30～40名程度(予定)
中央紙・通信社(医療・生活系)、歯科業界紙、健康誌、
医学ジャーナリストおよび会員大学エリアをカバーするブロック紙・地方紙、
WEBメディアなど
- 出演者 【講演①】 岩手医科大学歯学部
口腔保健育成学講座歯科矯正学分野教授
佐藤 和朗 様
【講演②】 朝日大学歯学部
口腔機能修復学講座口腔生理学分野教授
碓 哲崇 様
【挨拶】 一般社団法人 日本私立歯科大学協会
井出 吉信 会長
【司会】 一般社団法人 日本私立歯科大学協会
安井 利一 副会長・専務理事

進行表

TIME	LAP	TITLE	登壇者	内容
13:30	'30	受付		■メディア受付～客席誘導
14:00	'5	主催者挨拶	一般社団法人 日本私立歯科大学協会 井出 吉信 会長	■協会代表挨拶
14:05	'5	協会概要紹介 講師紹介	一般社団法人 日本私立歯科大学協会 安井 利一 副会長・専務理事	■協会概要紹介 講師紹介
14:10	'35	講演①	岩手医科大学歯学部 口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 佐藤 和朗 教授	■講師ご講演 医歯連携で行う睡眠時無呼吸症候群の治療
14:45	'35	講演②	朝日大学歯学部 口腔機能修復学講座口腔生理学分野 碓 哲崇 教授	■講師ご講演 何を食べたいかを脳はどう決めるか 一好き嫌いをさせない摂食の脳科学
15:20	'10	質疑応答	進行:安井 利一 副会長・専務理事 回答: 岩手医科大学歯学部 口腔保健育成学講座歯科矯正学分野 佐藤 和朗 教授 朝日大学歯学部 口腔機能修復学講座口腔生理学分野 碓 哲崇 教授	■質疑応答
15:30	'05	閉会	安井 利一 副会長・専務理事	■15:35終了

11月8日はいい歯の日！

全国の10～70代の男女1,000名に聞く
「歯科診療」および「歯科医師」に関する第4回意識調査
前回(2012年)に引き続き
かかりつけ歯科医院の満足度は約80点！

この人に診てほしい・・・「理想の歯科医師像」ランキング1位
男性は福山雅治さん、女性は天海祐希さん ともにトップに返り咲き

一般社団法人日本私立歯科大学協会(東京都千代田区)は、11月8日のいい歯の日を前に、10～70代の幅広い世代の男女1,000名(全国6エリア)に対して、「歯科診療」及び「歯科医師」に関する意識調査を実施しました。前回(2012年)に続き、今回が4回目の調査となります。

◆調査期間：2016年10月7日(金)～10月11日(火) ◆調査対象：10～70代の男女1,000名

かかりつけ歯科医院があるのは3人に2人。ポイントは「人柄」

- ◆かかりつけの歯科医院がある人は、全体の3人に2人(64.3%)。満足度は約80点(80.3点)。
- ◆かかりつけ歯科医院を選ぶポイントは「人柄」(50.5%)、「技術」(46.7%)、「立地」(46.4%)など。前回調査トップの「立地」は3位に後退し「人柄」重視に。

理想の歯科医師像TOP、男性福山雅治さん、女性天海祐希さん

- ◆理想の歯科医師は、「丁寧な治療」(71.8%)を「高い技術」(68.7%)でしてくれる人。さらに、「人柄がよい・優しい」(67.7%)という点も重要。
- ◆歯科医師の仕事は、「高収入」(85.0%)かつ「やりがい」(83.0%)があり、「尊敬される」(82.2%)仕事であるというイメージ。前回調査よりポジティブな項目がアップ。
- ◆有名な人に例えると、男性では「福山雅治」さん(53票)、女性では「天海祐希」さん(72票)が1位。

7割超が歯や口腔の健康について“自信ナシ”(74.1%)と回答

- ◆約7割(74.1%)が、自分の歯や口腔環境に「自信がない」と回答。
- ◆歯科医院でのオーラルケアは、91.2%が必要だと感じているが、受診率は34.6%にとどまる。
- ◆歯や口腔の健康に「自信がある」人ほど、健康や笑顔にも自信があり、毎日が充実。
- ◆他人の口内環境で気になることは「口臭」(68.3%)が1位。

■このリリースに関するお問い合わせや取材、資料をご希望の方は下記までご連絡ください■

歯科診療に関する意識調査広報事務局 担当：山口(やまぐち)

TEL:03-5774-8871 / FAX:03-5774-8872 / mail:press@trenders.co.jp

※本調査は、一般社団法人日本私立歯科大学協会からの委託を受けて、(株)電通パブリックリレーションズが実施しました。

I. 歯科診療・歯科医師に対する意識と実態

はじめに、「歯科医院への通院経験」を聞いたところ、**94.9%**と大多数が「通院したことがある」と回答。「主にどのような時に歯科医院に行きますか？」という質問では、「**定期健診などで定期的に受診している**」(30.3%)という回答が最も多く、「歯に痛みを感じたり、症状をはっきり自覚した時」(29.3%)を上回る結果に。定期的な歯科受診の考え方が根付きはじめていく様子がうかがえます。

次に、「かかりつけの歯科医院があるか」を聞いたところ、6割超(64.3%)が「ある」と回答。また、かかりつけの歯科医院の「満足度」を聞くと、**全体平均で80.3点**となりました。「かかりつけ歯科医院を選ぶ際の基準」については、「歯科医師の人柄がよい」(50.5%)、「歯科医師の技術が高い」(46.7%)がトップに。前回(2012年)調査では「立地がよい」が65.0%で最多でしたが、**近年は「通いやすさ」以上に、「歯科医師の人物像」が重視されるようになってきている**ことがわかります。

続いて、「歯科医師のイメージ」について調査を実施。その結果、**歯科医師は「清潔だ」(90.1%)、「丁寧だ」(80.4%)、「信頼できる」(78.3%)、「やさしい」(67.5%)**などの回答が多く挙がりました。なお、**職業として捉えた場合では、「収入が高い仕事」(85.0%)、「やりがいがある仕事」(83.0%)、「尊敬される仕事」(82.2%)**などが上位に。一方で、その責任の重大さからか、「ハードな仕事」(76.2%)というイメージを持つ人も多いようです。

また、自身が考える「**理想の歯科医師**」について質問すると、「**丁寧な治療をしてくれる**」が**71.8%**で最多に。以下、「高い技術で治療をしてくれる」(68.7%)、「人柄がよい・優しい」(67.7%)と続きました。さらに、「この人が歯科医師だったら、診てもらいたいと思う有名な人」について聞くと、男性では福山雅治さん(53票)、女性では天海祐希さん(72票)がそれぞれ1位に輝きました。

II. 口内環境に対する意識と実態

現在の「歯や口腔の悩み」としては、「食べ物がはさまる」(26.1%)、「むし歯がある」(24.5%)、「歯並び・噛み合わせ・すき歯」(22.9%)などが上位に。また、自分の「歯や口腔の健康に対する自信」を質問すると、「**自信がある**」と答えた人は**25.9%**にとどまり、残りの約7割(74.1%)は「自信がない」と答えました。

こうした「歯や口腔の健康に対する自信」は、口腔内以外の健康面や精神面にも大きく影響するようで、前問で「**自信がある**」と答えたグループと「**自信がない**」グループでは、「**健康である**」と思うかどうかで**30.5ポイント**、「**笑顔に自信がある**」かで**27.0ポイント**、「**毎日が充実している**」かで**24.5ポイント**の差が生じています。

また今回は、「自身の歯の本数」についても調査を実施しました。ヒトの永久歯は全部で28本であり、親知らずが4本あると合計32本になります。年代別に回答をみると、10代・20代ではいずれも平均28.7本ですが、その後、年齢が上がるにつれて平均本数が減っていき、50代では25.1本、60代では24.3本、70代では21.8本がそれぞれの平均値となりました。

続く「歯や口腔の健康についての考え」を聞いた質問では、**歯や口腔を健康に保つことが「全身の健康にとって大切である」と回答した人が94.1%**という結果に。また、「歯や口腔を健康に保つことは、体の老化を防止することに役立つ」、「自分の歯で食事を行うことが、健康長寿において重要だ」と回答した人も多く、それぞれ90.0%にのぼっています。

さらに、「他人の口内環境で気になる点」を聞いたところ、「**口臭が強い**」(68.3%)が最も多く、以下、「タバコのヤニ・茶渋の沈着・歯の黄ばみ」(59.2%)、「歯並び・すき歯・噛み合わせが悪い」(57.1%)、「歯垢・歯石が多い」(53.3%)と続きました。

調査概要／まとめ②

III. オーラルケアに対する意識と実態

オーラルケアとは、口腔内のケア、つまり歯や歯ぐき、舌などを清潔にし、健康的に保つことを指します。

まず、「自分で行っているオーラルケア」を聞くと、「歯ブラシで歯磨き」(85.2%)のほか、「歯間ブラシやフロスを使用する」(34.6%)、「自分に合った歯ブラシを選ぶ」(30.4%)、「マウスウォッシュを使用する」(23.2%)、「舌の掃除をする」(22.6%)などが上位となりました。全体的に、**男性より女性のほうがオーラルケアへの意識が高い**ようです。また、60代・70代では、歯間ブラシやフロスの利用率が大きく上がり、60代では52.1%、70代では47.9%が利用しています。

続いて「歯科医院でのオーラルケア」について聞いたところ、34.6%が「必要だと思うので、実際に受けている」と回答。**3人に1人が、歯科医院でのオーラルケアを実践している**ようです。一方で、「必要だと思うが、実際には受けていない」人も56.6%と約6割にのぼっています。

また、歯科医院で実際にオーラルケアを受けていると回答した人(346名)にその内容を聞くと、「歯垢・歯石除去」(87.3%)が最多で、以下、「むし歯のチェック」(67.3%)、「歯周病チェック・予防」(60.1%)、「歯磨き指導」(58.1%)と続きました。さらに年代別でも違いがみられ、**10代では「フッ素塗布」が97.5%**と、全体平均(20.5%)を大きく上回っているほか、**60代では「歯周病チェック・予防」(80.6%)**の回答、**70代では「歯垢のメンテナンス」(26.1%)**の回答が目立っています。

IV. 歯科医療について

高齢が進む日本社会においては、将来的に、通院ではなく、歯科医師や歯科衛生士が自宅に来て診療する「訪問(在宅往診)歯科診療」の需要が増えていくと考えられます。

現時点での利用・認知状況を聞くと、**訪問(在宅往診)歯科診療を自分または家族が利用したことがある人は9.8%**で、前回(2012年)調査の**5.4%**と比べるとアップしています。さらに、**認知率についても、前回の40.8%から、半数近い46.1%に上がっています**。

さらに今回は、「未来の歯科医療について、実現を望むこと」についても質問をしました。その結果、「**痛みのない治療**」(72.3%)、「**歯の再生化**」(68.1%)、「**歯を抜かない治療**」(64.7%)が上位になりました。

なお、年代が高くなるにつれて、実現してほしいことが増える傾向にあり、特に60代・70代では、トップ3の回答に加えて、「歯の再生化」(60代:63.2%、70代:54.9%)、「歯ぐきの再生」(60代:48.6%、70代:43.7%)などを望む声が目立ちました。

～歯科医学・歯科医療から国民生活を考える～ 第7回歯科プレスセミナー

講演1: お口の中のあんな病気、こんな病気
—虫歯と歯周病以外にも驚くほどたくさんの病気が!
講演2: 口腔病理学から見たASEAN経済共同体後のアジアにおける
歯科医療への日本の戦略的役割

<開催概要>

- 日時 2017年3月9日(木) 14:00～15:35 (受付開始 13:30)
- 会場 コンファレンススクエア エムプラス 1階「サクセス」
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-5-2 TEL:03-3282-7777
- 登壇者 講演1: 松本歯科大学歯学部口腔病理学講座教授
長谷川 博雅 氏
講演2: 愛知学院大学歯学部口腔病理学講座教授
前田 初彦 氏
- 主催 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 井出 吉信 会長
一般社団法人 日本私立歯科大学協会 前野 正夫 副会長
一般社団法人 日本私立歯科大学協会

<ご案内地図>



- | | 駅名 | 出口 | 所要時間 |
|-------|-------------|-----------|--------|
| <JR> | 「東京駅」 | 丸の内南口 | 徒歩 約2分 |
| | 京葉線「東京駅」 | 10番出口より直結 | |
| <地下鉄> | 千代田線「二重橋前駅」 | 4番出口 | 徒歩 約2分 |
| | 丸ノ内線「東京駅」 | 地下道経由 | 徒歩 約3分 |
| | 都営三田線「大手町駅」 | D1出口 | 徒歩 約4分 |
| | 東西線「大手町駅」 | B1出口 | 徒歩 約6分 |

進行表

TIME	LAP	TITLE	登壇者	内容
13:30	'30	受付		■メディア受付～客席誘導
14:00	'5	主催者挨拶	一般社団法人 日本私立歯科大学協会 井出 吉信 会長	■協会代表挨拶
14:05	'5	協会概要紹介 講師紹介	一般社団法人 日本私立歯科大学協会 前野 正夫 副会長	■協会概要紹介 講師紹介
14:10	'35	講演①	松本歯科大学歯学部 口腔病理学講座 長谷川 博雅 教授	■講師ご講演 お口の中のあんな病気、こんな病気 —虫歯と歯周病以外にも驚くほど たくさんの病気が!
14:45	'35	講演②	愛知学院大学歯学部 口腔病理学講座 前田 初彦 教授	■講師ご講演 口腔病理学から見たASEAN経済共同体後の アジアにおける歯科医療への日本の戦略的役割
15:20	'10	質疑応答	進行 前野 正夫 副会長 回答: 松本歯科大学歯学部口腔病理学講座 長谷川 博雅 教授 愛知学院大学歯学部口腔病理学講座 前田 初彦 教授	■質疑応答
15:30	'05	閉会	前野 正夫 副会長	■15:35終了

別記 7

報道用基礎資料



歯科医学教育に見る 歯科医師の未来像



一般社団法人 日本私立歯科大学協会

目次

【第1章 / ライフステージの様々な場面と活躍する歯科医師】	P10
1-1 妊婦様さんへ/マタニティ歯科	P10
1-2 小さなお子さんへ/小児の口腔機能、むし歯予防、摂食・嚥下、歯並び等	P12
1-3 若年期のお子さんへ/歯科矯正、顎関節症、スポーツ歯科 等	P14
1-4 青年期の方へ/歯周病ケア、口臭外来、ホワイトニング 等	P16
1-5 老年期の方へ/補綴、インプラント、口腔がん、等	P18
1-6 高齢者の方へ/リハビリテーション(急性期、在宅) 等	P20
(コラム1) 生きるために不可欠な取組のための歯を作るスペシャリスト [歯科技工士]	P22
【第2章 / 国民の健康・QOL向上に貢献する歯科医師】	P23
2-1 口の健康は全身の健康と関係があり長寿や医療費削減にも貢献	P23
2-2 超高齢社会に対応した口腔機能低下の予防	P26
2-3 地域包括ケアにおける歯科医療の役割	P28
2-4 命を守る口腔ケアや元施設など、大規模災害の被災地を支援	P30
(インタビュー1) 歯科大若手職員	P32
(コラム2) 口の健康から国民の命と健康を支える「歯科衛生士」	P34
(コラム3) データを完る歯科医師	P35
【第3章 / 科学の進歩に貢献する歯科医師】	F36
3-1 歯科医師は口腔がんのキーパーソンへ/口腔外科	F36
3-2 歯科医師は口・顔面の痛みや麻痺のキーパーソンへ/歯科麻酔	F38
3-3 歯科医師は最先端医療のキーパーソンへ/再生医療を担う研究者としての歯科医師	F40
3-4 歯科医師はスポーツ医学のキーパーソンへ/スポーツ歯科	F42
(インタビュー2) 歯科大生	F44
(コラム4) 変わりゆく歯科大学	F45
(インタビュー3) 歯科界オピニオンリーダー	F48
公益社団法人 日本歯科医師会 会長 藤本 道生 氏	F48
日本歯科医師会 会長 東京歯科大学 理事長 柳川 忠廣 氏	F51
日本歯科医会 会長 東京歯科大学 理事長 高橋 英登 氏	F51
【第4章 / 資料集 歯科データ集】	P54
海外の歯科事情	P54
歯科医師データ	P55
歯科医療データ	P58
一般社団法人 日本私立歯科大学協会の概要	P60

(10) 私立歯科大学（学部）の財政等の現状について（平成 27 年版）

加盟大学から資料の提供を受け、平成 27 年版を作成し、平成 28 年度第 1 回経営部会（H28. 6. 29）の審議を経て、加盟大学へ送付した。

(11) 広報発行(第 72 号・第 73 号)について

1. 第 1 回広報委員会（H28. 10. 13）を書面により開催し、大野委員長から本年度の協会広報については、従前どおり年二回、発刊することとし、掲載項目についても従前どおりとしたいとの提案があり、承認された。

【掲載項目】

1. 巻頭言
 2. 大学のニュース
 3. 事業概要
 4. 日本私立歯科大学協会関係の諸会議
 5. 新聞記事の要点
 6. 叙勲
 7. 訃報
 8. 人事異動消息
 9. 協会役員・部会・委員会名簿
 10. 一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿
 11. 編集後記
2. 広報委員会の承認事項に従い、第 72 号を平成 28 年 11 月 30 日に、第 73 号を平成 29 年 3 月 31 日に発行した。（別記 8）



日本私立歯科大学協会広報



目次

〈巻頭言〉

歯科医学教育における Quality assurance と Customer satisfaction 一戸達也 2

〈大学のニュース〉

- 北海道医療大学歯学部
 - ・浅香正博学長就任 6
 - ・社会医療法人社団カレスサッポロと「地域医療連携推進法人」設立に向けた合意書に調印 6
 - ・栃東国立総合医科大学と大学間交流協定を締結 6
 - ・歯学部5年生が歯科基礎医学会「優秀学生ポスター賞」を受賞 6
- 岩手医科大学歯学部
 - ・平成27年度高大連携事業 ウインターセッションが行われました 7
 - ・平成27年度最終講義が行われました 7
 - ・平成27年度名誉教授称号授与式が行われました 8
 - ・3学部合同学生セミナーが行われました 9
- 奥羽大学歯学部
 - ・学長就任挨拶 9
 - ・奥羽大学生の新たな旅立ち オリエンテーション キャンプ開催 10
 - ・NHK「公開復興サポート in 郡山」が本学キャンパスで開催 10
 - ・献体者合同慰霊式 11
- 明海大学歯学部
 - ・メキシコ州立自治大学 (UAEM) の CIEAO 30 周年記念式典出席について 11
 - ・歯学部相互交流プログラム アメリカの協定校から研修生が来学 12
 - ・Meikai Learning Commons オープン！ 自発的な学修を促す学修環境が整う 12
 - ・歯学部相互交流プログラム トウルク大学から研修生が来学 13
- 東京歯科大学
 - ・井出吉信学長再選、新人事発令される 13
 - ・水道橋校舎本館西棟が竣工 13
- 昭和大学歯学部
 - ・富士吉田市と包括的連携協力に関する協定を締結 14
 - ・本学の学生がジョセフ・リスター賞を受賞 15
 - ・アンタナリボ大学と医学部間協定を締結 15
 - ・平成27年度卒業式—医学部：第84回 歯学部：第34回 薬学部：第48回 保健医療学部：第11回— 16
 - ・平成28年度入学式—明治神宮会館— 16
- 日本大学歯学部
 - ・日本大学歯学部 三島歯科医療センター開院 17
 - ・平成27年第2回歯学部公開講座 口腔と全身の健康シリーズ (39回) 18
 - ・土地の神様に工事の無事や安全を祈る儀式 地鎮祭 18
- 日本大学松戸歯学部
 - ・平成28年度 第1回・2回・3回進学説明会 (オープンキャンパス) 19
 - ・4年次生「しゃべり場」報告 19
- 日本歯科大学生命歯学部
 - ・創立110周年式典 20
 - ・創立110周年記念祝賀会 21
 - ・JR飯田橋駅西口駅舎整備 21
 - ・東京・図書館で企画展示 HPで所蔵貴重書を公開 21
- 日本歯科大学新潟生命歯学部
 - ・食育・健康科学の寄附講座設置 22
 - ・教職員ボランティアが校庭を清掃 22
- 日本歯科大学生命歯学部・新潟生命歯学部
 - ・創立者の偉業を語る—東京と新潟で記念講演会— 22

- ・ベストティーチャー賞表彰 23
- 神奈川歯科大学
 - ・高雄醫學大學との学術交流協定の締結 23
 - ・横浜クリニック 歯周病とナッシュの関連について 記事になりました 23
 - ・ヤング歯科大学を訪問して 24
 - ・大学院ニュース 24
- 鶴見大学歯学部
 - ・解剖献体合同葬儀を厳修 24
 - ・市川正幸講師 (歯学部歯科技工研修科) が「平成27年度医学教育等関係業務功労者」の表彰 25
 - ・本山参拝会体験記 25
- 松本歯科大学
 - ・中国河北省の歯科医師4人が病院研修開始 25
 - ・フリースタイルスキーモーグル選手 萩野 京さん、和さん姉妹が来院—スポーツデンティストが咬合の安定化と外傷予防で支援— 26
 - ・元横綱・朝青龍関と指揮者・西本智実さんに名誉博士称号 26
 - ・摂食機能リハビリテーションセンター開設 26
- 朝日大学歯学部
 - ・海外の歯学部学生を受け入れ 27
 - ・瑞宝中綬章を受章 27
 - ・包括支援歯科医療センターを開設 27
 - ・アラバマ大学と文化学術交流協定 28
- 愛知学院大学歯学部
 - ・歯学部大学院生の佐藤満成さんが日本細菌学会総会にて優秀発表賞を受賞 28
 - ・歯学部の千田彰教授が、「日本接着歯学会学会功労賞」「日本歯科保存学会学会賞」受賞 28
- 大阪歯科大学
 - ・セレッソ大阪スポーツクラブと連携研究協定を締結 29
 - ・第23回大阪歯科大学公開講座 (枚方講座)—「近未来の歯科治療 デジタルデンティストリー」— 29
- 福岡歯科大学
 - ・世界最先端の「デジタル化口腔顎機能記録解析教育装置」を導入 30
 - ・マンダレー歯科大学 (ミャンマー) と学術交流協定を締結 30
 - ・被災地での歯科医療救護活動 31
 - ・福岡歯科大学医科歯科総合病院に「リハビリテーション科」を標榜 31
- 〈事業概要〉
 - 平成27年度協会決算 32
 - 平成28年度協会事業計画 32
 - 平成28年度協会収支予算 35
 - 総会 36
 - 理事会 40
 - 部会・委員会 43
 - 事務局長会議 44
 - 研修会 44
 - 第6回歯科プレスセミナー 45
- 〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉
 - 第37回全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会 46
 - 第21回日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会 46
 - 平成27年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会 (第14回定例会議) 46
- 〈新聞記事の要点〉
 - 1. 教育関係 47
 - 2. 歯科関係 48
- 〈叙勲〉 49
- 〈人事異動消息〉 49
- 〈協会役員・部会・委員会名簿〉 60
- 〈一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿〉 64
- 〈編集後記〉 64



日本私立歯科大学協会広報

第73号
平成29年3月

目次

〈巻頭言〉

少子超高齢社会における歯科医師像 里村一人…………… 2

〈大学のニュース〉

○北海道医療大学歯学部

- ・The 1st Symposium on Personalized Oral Health Scienceを開催…………… 5
- ・第12回アスタキサンチン研究会で本学大学院生が「奨励賞」を受賞しました…………… 5
- ・サハリン州立歯科病院にて歯科技工士セミナーを実施しました…………… 5

○岩手医科大学歯学部

- ・ウェルカム2016が行われました…………… 6
- ・オープンキャンパス2016が行われました…………… 6
- ・秋篠宮同妃両殿下が災害時地域医療支援教育センターをご視察されました…………… 6
- ・創立120周年記念イベント「健康フェス2016～いきいき元気健康家族～」が行われました…………… 7

○奥羽大学歯学部

- ・慶熙大学歯学部との国際交流…………… 8
- ・歯学部学生が日本臨床口腔病理学会で発表…………… 8
- ・スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム日本代表選抜大会で発表…………… 8
- ・奥羽大学歯学会を開く…………… 9

○明海大学歯学部

- ・宮田理事長、安井学長がUCLA 歯学部卒業式に出席しました…………… 9
- ・UCLAのGene Block学長が宮田侑相談役を表敬訪問…………… 9
- ・2016年度歯学部海外研修 世界4カ国・8大学で最新の歯科事情を学ぶ…………… 10
- ・UCLA 名誉歯学部長のNo-Hee Park氏に名誉博士号を授与…………… 10

○東京歯科大学

- ・東京歯科大学短期大学 設置認可される…………… 11
- ・Elective Study Programでの海外からの学生訪問…………… 11

○昭和大学歯学部

- ・昭和大学発達障害医療研究所 自閉症を脳回路から見分ける先端人工知能技術を開発…………… 12
- ・上條奨学賞 決まる 各学部から9人が受賞…………… 12
- ・昭和大学の新たなシンボル「上條記念館」着工へ…………… 14
- ・学校法人多摩美術大学と包括連携協定を締結…………… 15

○日本大学歯学部

- ・日本大学歯学部創設100周年記念式典での挨拶…………… 16

○日本大学松戸歯学部

- ・第43回 松戸まつり…………… 18
- ・市民大学講座…………… 19

○日本歯科大学生命歯学部

- ・創立110周年全国校友大会…………… 20
- ・附属病院で中・高校生が職場体験実習…………… 22

○日本歯科大学新潟生命歯学部

- ・新潟で創立110周年記念公開講座開催…………… 22
- ・国際誌「Odontology」年4回発行に…………… 22
- ・広がる国際交流の輪—姉妹校 学生たちが来校—…………… 23
- ・新潟病院で職場体験…………… 23

○神奈川歯科大学

- ・横須賀市エンディングプラン・サポート事業と神奈川歯科大学献体事業との協定…………… 24

・新病院建設報告…………… 24

・大学院だより…………… 24

○鶴見大学歯学部

- ・歯塚供養…………… 25
- ・技工研修科修了生 柳本 佑さんが内閣総理大臣より表彰される…………… 25
- ・精霊祭を厳修…………… 25
- ・歯学部 インド Coorg Institute of Dental Sciences (CIDS) と学術交流協定締結…………… 26

○松本歯科大学

- ・日本歯科保存学会秋季学術大会を開催…………… 26
- ・松本歯科大学・河北医科大学姉妹校締結30周年記念式典…………… 26
- ・2016年秋の褒章 矢ヶ崎 雅理事長 藍綬褒章を受章…………… 27
- ・小児歯科学講座・松田紗衣佳助手 外国誌のオファーで総説論文を執筆…………… 27

○朝日大学歯学部

- ・歯学部海外研修を実施…………… 28
- ・「優秀論文賞」を受賞…………… 28
- ・「大会長賞」受賞…………… 28
- ・海外の歯学部学生を受入れ…………… 29

○愛知学院大学歯学部

- ・ラオス・ベトナム両国と積極的交流…………… 29
- ・本学職務発明が意匠登録されました…………… 29

○大阪歯科大学

- ・平成29年4月 大阪歯科大学に「医療保健学部」が開設…………… 29
- ・スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRIP) 日本代表選抜大会において本学代表学生が臨床部門第2位を獲得しました…………… 30
- ・牧野学舎にクラブハウス完成…………… 30

○福岡歯科大学

- ・学校法人福岡学園 開学記念式典開催…………… 31
- ・第23回日本歯科医学会総会開催…………… 31
- ・本学学生が第23回日本歯科医学会総会でDSP優秀賞を受賞…………… 31
- ・リバプール大学歯学部と学術交流協定を締結…………… 32

〈事業概要〉

- 理事会…………… 33
- 部会・委員会…………… 35
- 事務局長会議…………… 36
- 研修会…………… 36
- 第7回歯科プレスセミナー…………… 37

〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉

- 第42回全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会…………… 38
- 第24回日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士協議会…………… 38
- 平成28年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会 (第15回定例会議)…………… 38

〈新聞記事の要点〉

1. 教育関係…………… 39
2. 歯科関係…………… 40

〈叙勲〉…………… 41

〈訃報〉…………… 41

〈人事異動消息〉…………… 42

〈第48回全日本歯科学生総合体育大会の成績表〉…………… 45

〈協会役員・部会・委員会名簿〉…………… 48

〈(社)日本私立歯科大学協会加盟名簿〉…………… 52

〈編集後記〉…………… 52

(12) 受験生確保対策事業について

第1回受験生確保対策委員会（H29.3.21）を開催し、平成28年度において、前年の委員会での決定事項に従い、下記のとおり、事業を実施したことの報告があった。

- ①私立歯科大学・歯学部の受験を希望する高校生等が、受験計画を立てる際の参考にしてもらうため、主要な全国の高等学校（校長及び進路指導部主事宛）に下記資料を送付し、校内への掲示ならびに受験希望者への配布を依頼
 - ・ 新しい歯科医師の時代がやってくる！
 - ・ これから歯科医師をめざすみなさんへ
 - ・ 私立大学 17 歯学部問い合わせ先&アクセス一覧
 - ・ 私立大学 17 歯学部平成 28 年度入試（一般入試・センター利用入試）のお知らせ
- ②「医歯薬進学4月号（平成29年3月発刊）」に下記広告を掲載
 - ・ 新しい歯科医師の時代がやってくる！
 - ・ これから歯科医師をめざすみなさんへ
 - ・ 私立大学 17 歯学部問い合わせ先&アクセス一覧
- ③インターネット・ホームページによるPR
ホームページ掲出内容
 - ・ 全入試日程（加盟大学17歯学部の平成29年度入試日程一覧）
 - ・ 加盟大学入試要項（加盟大学17歯学部の平成29年度入試要項）
 - ・ 入試結果報告（加盟大学17歯学部の平成28年度入試結果）
 - ・ 歯学部を目指す皆さんに(Q&A) (私立歯科大学の特長等についての一問一答)
 - ・ 協会の刊行物
 - ・ 協会の概要
- ④ホームページのリニューアルを行い、スマートフォンから閲覧できるようにした

また、委員から新たな事業として、歯学部を目指す高校生に Wing 進学情報センターが配布している「歯学部へ行こう!!」とタイアップしたらどうかとの提案があり、引き続き検討することとなった。

(13) 研修事業について

1. 第2回教育・研究部会（H28.11.4）を開催し、第11回教務研修会のメインテーマを「高大接続改革をめぐって」とすること、講演の講師等について協議した。
2. 平成28年度に実施された研修事業は次のとおりであった。
 - 「第38回附属病院管理運営事務研修会」
 - ・ 開催日 平成28年10月14日(金)
 - ・ 世話大学 明海大学歯学部
 - 「第11回教務研修会」
 - ・ 開催日 平成28年12月8日(木)・9日(金)
 - ・ 場所 KKRホテル東京

3. 第 1 回研修委員会 (H29. 3. 14) を書面により開催し、前野委員長から平成 29 年度は「第 39 回附属病院管理運営事務研修会」をお世話大学を大阪歯科大学として開催すること及び第 13 回事務職員研修を開催することについて提案があり、承認した。

(14) 災害保健医療連絡協議会について

1. 第 7 回理事会 (H29. 2. 24) において、安井副会長・専務理事から資料により、日本歯科医師会が中心になって作成中の、災害歯科保健医療連絡協議会行動指針(案) について報告があった。
2. 第 83 回臨時総会 (H29. 3. 29) において、安井副会長・専務理事から資料により、日本歯科医師会において第 4 回災害歯科保健医療連絡協議会 (H29. 2. 15) が開催され、災害が発生した際の協力体制等の行動指針について、検討が行われている旨の報告があった。

(15) 私学関係諸団体との提携・協力及び援助について

知識と技術の向上を図り、歯科医療の発展に寄与することを目的として活動を行っている下記の 5 つの団体に対して、その活動を後援するため助成金を交付した。

- 全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会
- 全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会
- 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会
- 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士協議会
- 全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会